

札幌チーム、作図及び課題文作成担当のやすばんです。
僕ら札幌チームの作品及び課題文完成までについて簡単に
説明したいと思います。

模範解答図面作成

まず、5月の自主勉強会メンバーがそれぞれ、今回のテーマである「市街地に建つ建築教育普及センター」案を持ち寄りしました。それぞれが個性あふれる案ばかりでした。建築関係者が情報交換の出来る場、技術の向上が可能な技能講習会等も可能な場、市民が参加できる場など、さまざまな案が出ましたが、全員の意見に共通していたことは「広く一般市民に建築というものに興味を持ってもらう場を提供すると共に、「建築教育普及センター」という堅苦しい名前とは違った、誰でも気軽に利用できる(してもらえ)楽しそうな施設を計画」という内容を盛り込むことでした。メンバーで意見交換をした結果、札幌ステイ5にあるような、サンクンガーデンを有し、ギャラリー 交流サロン 体験工房を結びつけて一般市民も気軽に利用可能な施設を目指すことで決定しました。

エスキス担当は014番でもノミネートされているochaさんでした。まずたたき台エスキスを作成してもらい、その案についてメンバーがそれぞれいい点放題で駄目出し、意見交換を行いました(ochaさん、ほんとお疲れ様でした)。その意見交換を反映して札幌チームエスキス案が完成しました。

その案を基に僕が図面を起こしました。図面を起こす段階で気にしたのは、この図面は「模範解答」図面であることでした。つまり、「模範解答図面」ということなので、少なくとも法規、構造については文句のない様にまとめたいということと、A2用紙に無理なく入ることを意識しました。

課題文作成

優秀5案に採用されて、課題文を作成する段階になって、まずは「模範解答例図面」を忠実に再現できるような、いわゆるしばりまくりの課題文を作成しました。これでもか、とくらい条件を書き加えました。このとき、設計条件についてはまだ漠然としたものでした。しかし、ばしばしにしばった課題文は、はっきりいってA3用紙1枚には収まりません。余白を削り、文字サイズを小さくして何とかA3用紙1枚に詰め込んだという感じです。このたたき台の課題文を基に、メンバーから駄目出しを頂きました。メンバーからの意見は、やはりもう少し条件をゆるくして解答者にゆだねる部分を増やしたほうがいいということでした。そこで、いろいろ意見を伺いながら、細部の調整を行いました。

サンクンガーデンの位置付けをどうしようかと思いましたが(設計条件に入れるのか入れないのか)、やはり施設の顔となる部分ではあるので、設計条件に記述しました。展示展望ギャラリーは最初建築展示ギャラリーの特記事項に入りましたが、あえて所要室欄に出してみました。配置場所の誘導として、「商業施設 等」からよく見える」として、南東角に持って行くようにしています。この「建築展示ギャラリー」を南東以外に配置した場合は減点は大きいと思っています。また、「建築体験工房の作品を展示」の表現で建築体験工房との動線配慮を含ませています。建築図書室は「建築展示ギャラリーが見える位置」という表現でギャラリーとの関係をつけていますが、同じ階にしようとするど面積オーバーになるので2階でも(同一階でなくても)OKという読解力を誘導しています。又、設計条件の「各部門間の動線に配慮」の記述で、建築図書室とコミュ部門を絡めるようにも誘導したつもりです。サンクンガーデンを北西側に配置するための誘導として、設計条件の「敷地周辺の環境に配慮した計画とする」を記入しています。これを逃して「南側のほうが気持ちいいから」などといった理由で西側ドライエリアと全絡めない計画とすると減点大です。条件をばかしていながら内容を誤ると減点大となる部分はこんな感じでしょうか？

何分課題文作成という作業が初めての経験だったので、右も左も分からない状態での作成作業でした。この文章を書きながら見直すと「もっとああしとけば、こうしとけば」といった部分も多々あり、結構未熟な課題文になってしまったなと思っていますが、「A3用紙に入る情報量の限界」と「言葉のちょっとした言い回しの差が非常に大きな差を生んでしまう」ことを学んだ

素晴らしい経験をさせてもらったと思っています。
なにより、一人での作業ではなくチームでの作業だったので、他の人の考えなどを聞くことが出来て非常によい経験でした。

施設の説明 (プレゼン)

この施設のメイン【王様】は外部からよく見える「建築展示ギャラリー」です。ここに模型やパネル、また、「建築体験工房」で作成されたもの等を展示し、一般市民が外から見て「なんだあれ?」と興味をもってもらい施設に入ってもらうために交差点角の一番いい場所に配置しています。エントランスは天井高4m【びっくり玉】として、圧迫感をなくして気持ちのよさを演出しています。エントランスから中に入ると、左手に「建築体験工房」を見下ろせる「見学ラウンジ」があり、右手には「建築展示ギャラリー」があります。ここで気軽に立ち寄った市民や目的を持ってやってきた市民、建築関係者を迎えます。「建築展示ギャラリー」に入るといろいろなオブジェが並んでいます。住宅の断面模型などもあるかもしれませんが、こういったものを見ていただき、更に「上のほうはどうなっているんだろ?」と興味を持ったときには「展示展望ギャラリー」から展示品を見下ろすことも出来ます。エントランスを進むと「建築交流サロン」があって、ここではちょっとした休憩や打ち合わせ等に利用できます。建築体験工房やサンクンガーデンを望むことが出来、気持ちよく打ち合わせの出来る空間となっています。「レストラン」は施設利用者だけでなく、北側のオフィスなどからの外部利用者も考慮しています。

2階にあがると、「建築図書室」と「コミュニティ部門」があります。EVを出て左前に「建築図書室」の入り口があり、後ろには「コミュニティ部門」となっています。「コミュニティ部門」は一般市民の集会に利用されるほか、建築関係者の講習会や勉強会などに利用され、こういった利用者が「建築図書室」を歩き来れるよう動線配慮をしています【落としどころ】。「建築図書室」は参考資料を見ながら実物の模型なども見れるように「建築展示ギャラリー」が見えるように計画しています。「休憩ラウンジ」ではサークル活動の合間や勉強会の合間に展示品を見ながら休憩できるように計画しています。「コミュニティ部門」は講習会等の集客人数が多いものから、個別勉強会などでも多くの人たちが利用できるよう、小さな部屋を多めに設定して、又「研修室」は利用規模に応じて可動間仕切りにより2室に分割できるようにしています。

地階には、「建築体験工房」があります。ここでは体験作業を行うので「更衣室」を設けています。体験作業中には汗まみれになったりすることもあるので更衣室にはシャワー室を設けています。「談話コーナー」は主に建築体験工房利用者が休憩できる空間とし、3層吹抜けで上部にトップライトを設けることで地階でも明るく開放的な空間を演出しています【びっくり玉】。「オープンカフェ」は施設利用者だけでなく西側地下鉄からのアプローチ客を意識し、サンクンガーデンとつながったカフェラスと一体的に利用することで、くつろぎの空間を演出します。

サンクンガーデン【びっくり玉 & 落としどころ】は西側地下鉄からこの施設にアプローチする人々を迎え入れる「顔」であり、中心市街地にちょっとしたオアシス空間を演出しています。

こんな感じです。
審査、よろしくお願いします!!